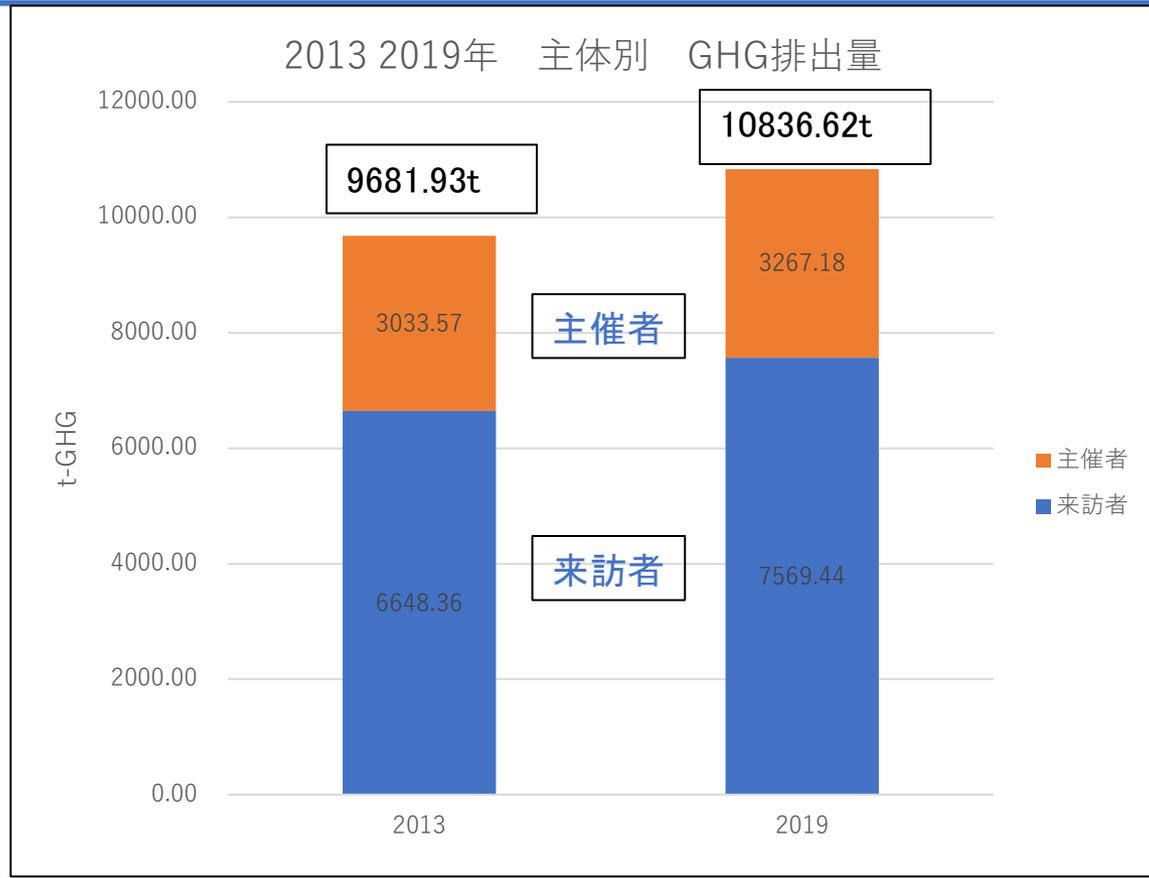




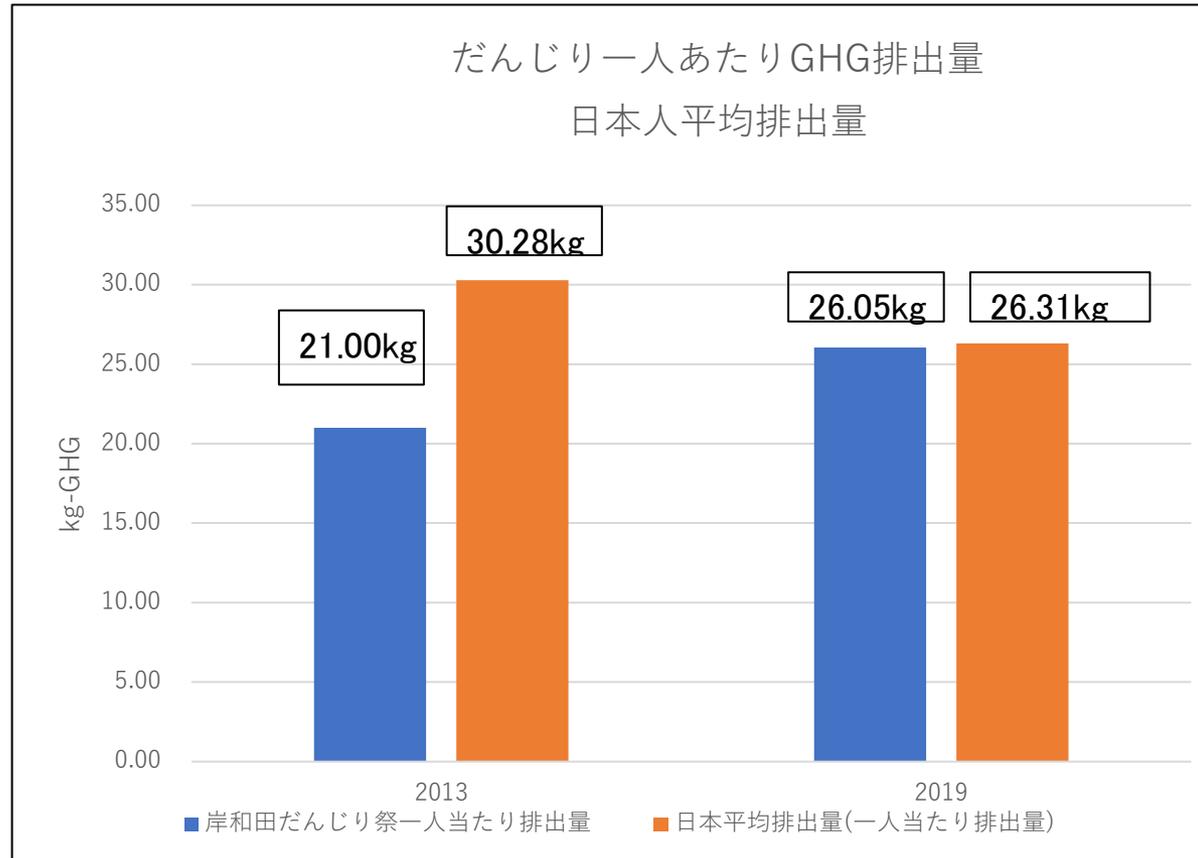
6. 結果 主体別GHG排出量



- 2019年度の方が2013年度よりもGHG排出量は大きくなっている。
- どちらの年度も来訪者が大きく占めており、どちらの年度も来訪者の方の排出量がかなり大きく占めている。



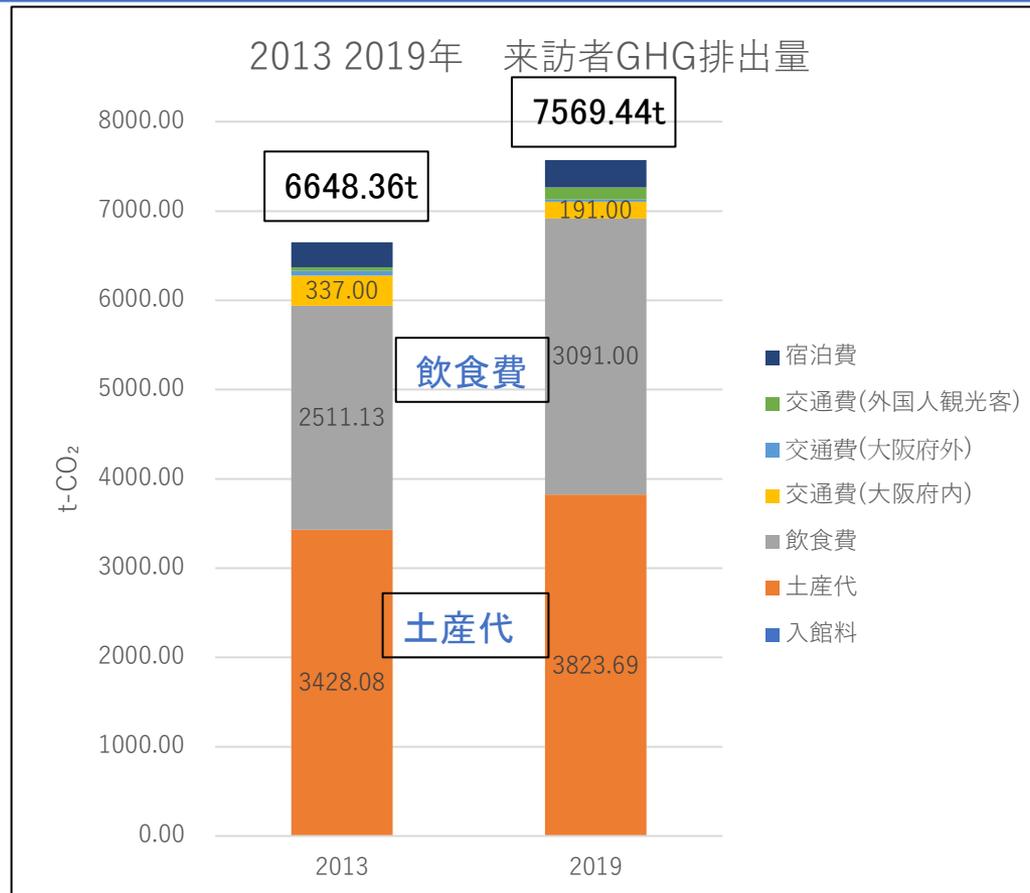
6. 結果 一人あたりGHG排出量



- 左の図は、岸和田だんじり祭一人あたりのGHG排出量。右の図は、日本全体の一日の一人あたりのGHG排出量である。
- 2013年度については、一人あたりの排出量が10kgほど異なっているが、2019年度については一人あたりの排出量は変化がない。



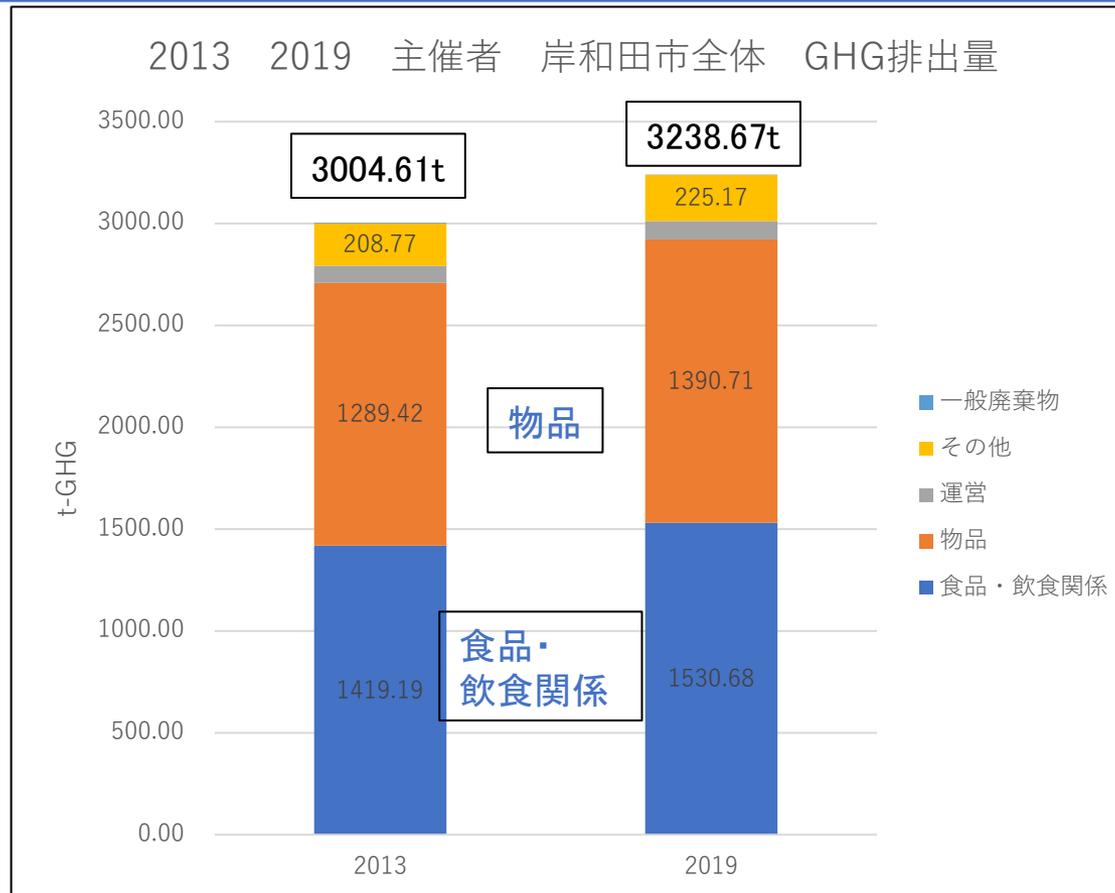
6. 結果 来訪者 GHG排出量



- どちらの年度も来訪者の部分は**土産代**の負荷が大きく占めている。
- 土産代の負荷が相対的に大きくなっている理由として、一日の一人当たりの平均購入金額が**3000円以上**かかっており、人数が多い分土産代の環境負荷は相対的に大きくなっている。



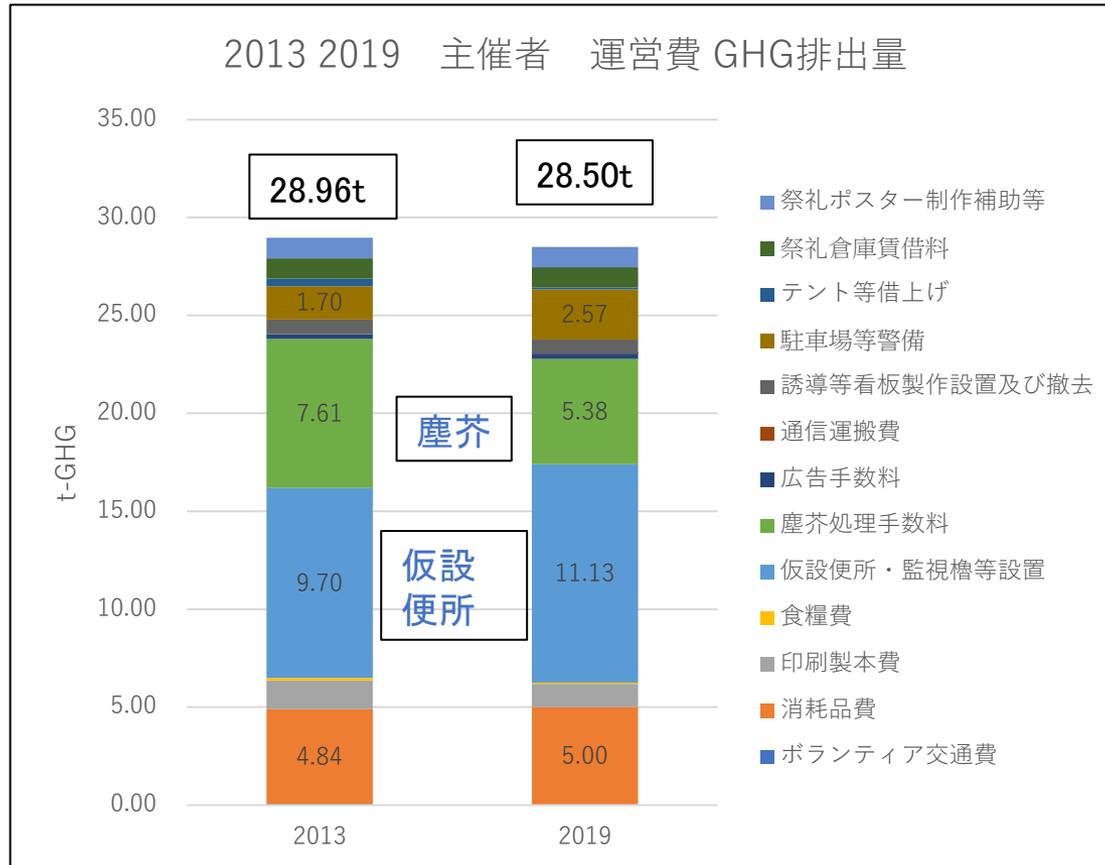
6. 結果 岸和田市全体 GHG排出量



- どちらの年度も**食品、飲食関係**のGHG排出量が相対的に大きいという結果が得られた。
- また、**物品**について相対的に大きくなる項目として、**運営委員会分担金**となっている。



6. 結果 運営費 GHG排出量



- 2013年度、2019年度共に大きく占めている割合として、**仮設便所・監視櫓等の設置**が大きく占めているという結果が得られた。



7.考察

研究目的

- ・ だんじり祭開催期間の、GHG排出量を算定する。そのうえで、GHG排出削減策を提示し、方針を関係者に提示する。

結論

① GHG排出量の削減の観点から

- ・ 主催者、来訪者共に飲食費に占めるGHG排出量の割合がかなり大きくなっている。飲食関係のGHG排出量を減少させる解決策として、地産地消及びフードロスの削減が必要である提案する。
- ・ 主催者の部分(岸和田市全体)の部分のGHG排出量を減少させる解決策として、環境負荷の低い製品の使用を促すことで、物品のGHG排出量を減少させることが望ましい。
- ・ お祭りの運営費についての削減については、岸和田だんじり祭の関係者との環境負荷を削減するための連携が必要であると考える。

② 環境の観点から

- ・ 岸和田だんじり祭を行う際に、エコで低炭素な祭りを行うことが必要であると考えている。例として提灯電灯をLED化する事による排出量削減効果が必要であると考えている。